

平成19年度 三番瀬鳥類行動別個体数調査 調査結果の概要

千葉県環境生活部自然環境課
株式会社 ケー・シー・エス

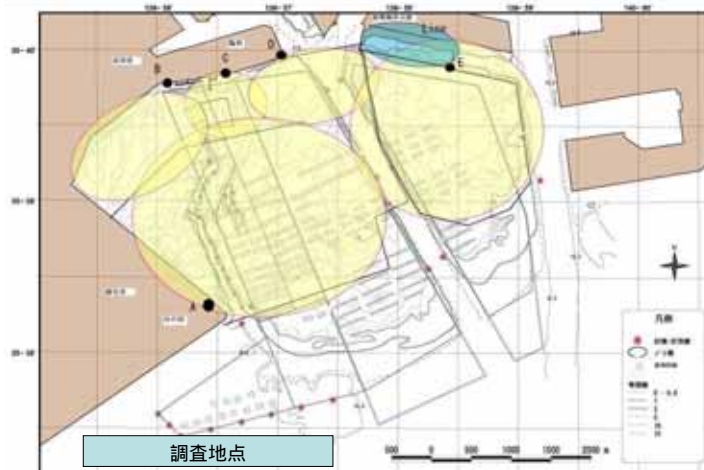
目的

三番瀬に飛来する鳥類の種毎の個体数及び採餌・休息等の行動を調査し、三番瀬がどのように利用されているかを把握し、過年度(平成8～9年度)の調査結果と対比することによってその変化を検討した。

調査時期

季節	回	実施日	過年度(平成8年度)	過年度(平成9年度)
春季	第1回	平成19年5月17日	平成8年4月20日～21日	平成9年4月30日～5月2日
	第2回	平成19年6月1日	平成8年5月14日～15日	平成9年5月6日～8日
夏季	第3回	平成19年8月28日	平成8年8月22日～23日	平成9年8月18日～19日
	第4回	平成19年9月11日	平成8年9月13日～14日	-
冬季	第5回	平成20年1月22日	平成9年1月21日～22日	-
	第6回	平成20年2月5日	平成9年2月4日～5日	平成10年2月22日～23日

注) 調査時期の設定にあたっては、財団法人日本鳥類保護連盟からヒヤリングを行なった。その結果、春季は、4月中旬から5月中旬、夏季は8月中旬から9月中旬、冬季は12月から2月が適していることがわかったため、過年度の調査時期、潮汐を勘案して上記のように決定した。

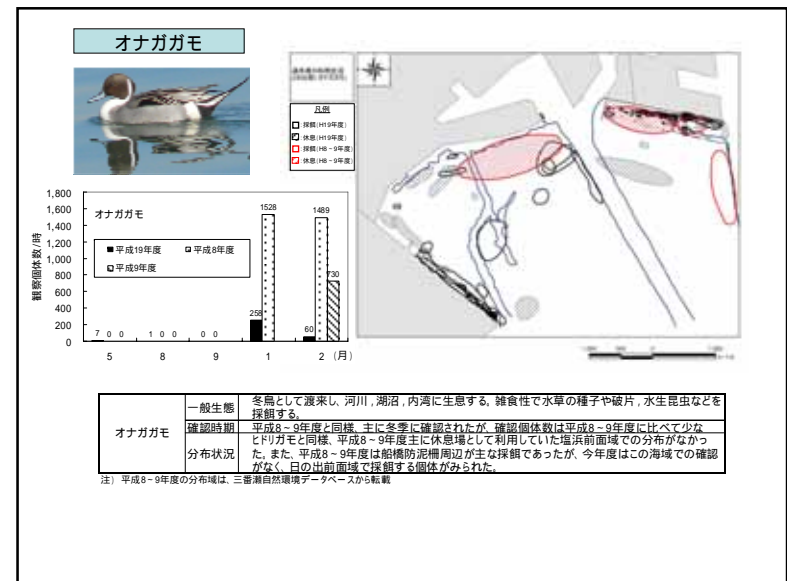
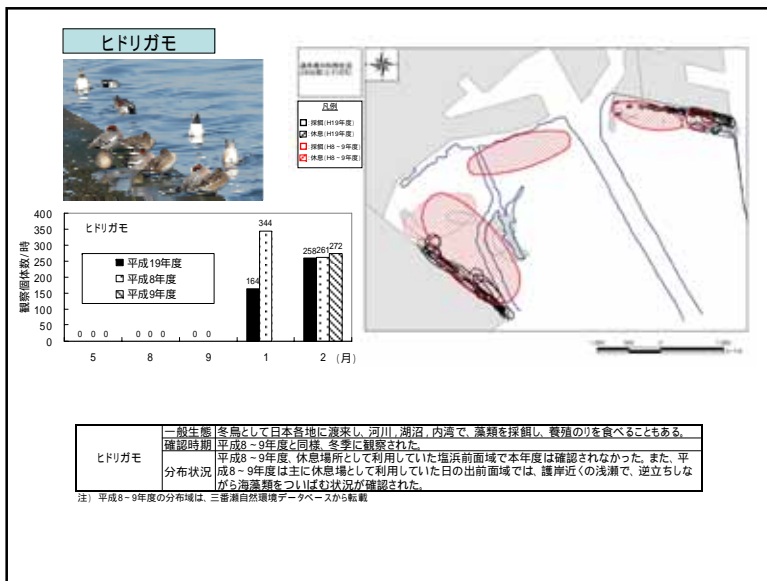
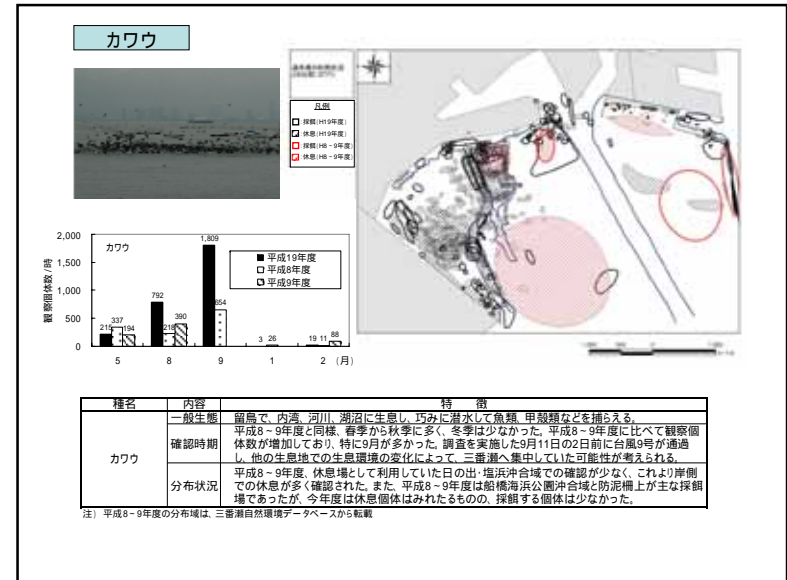
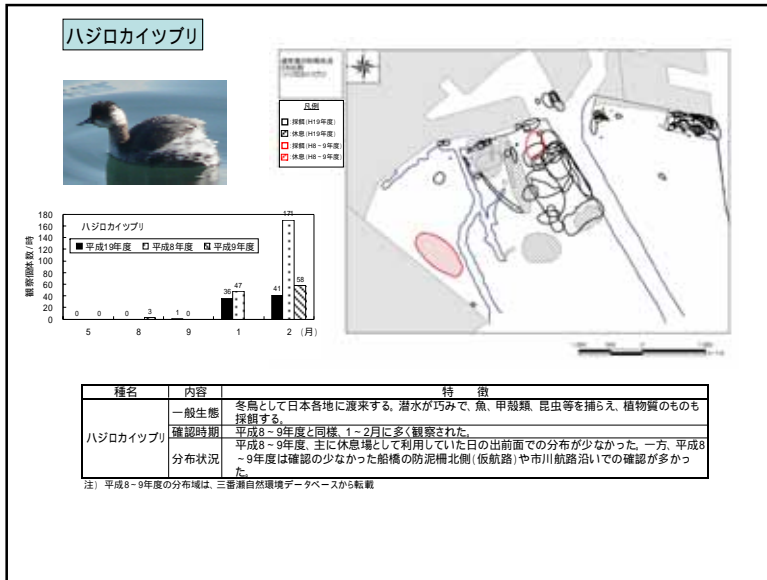


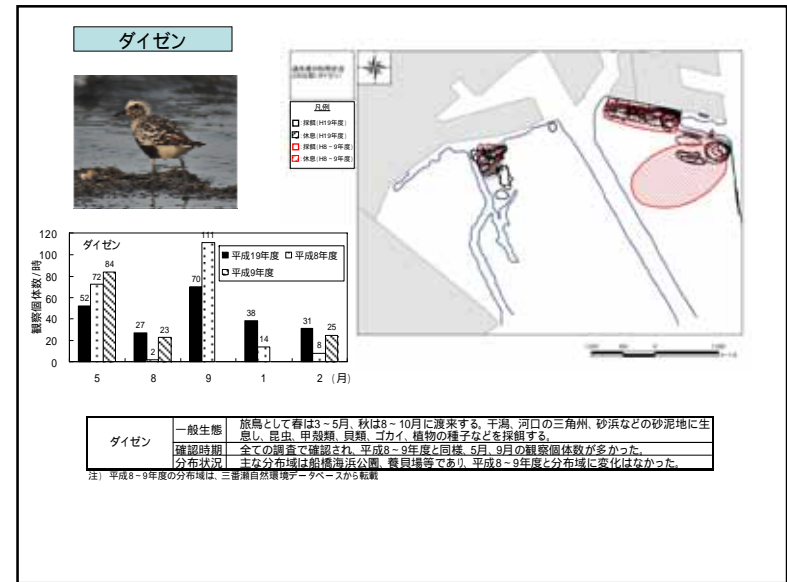
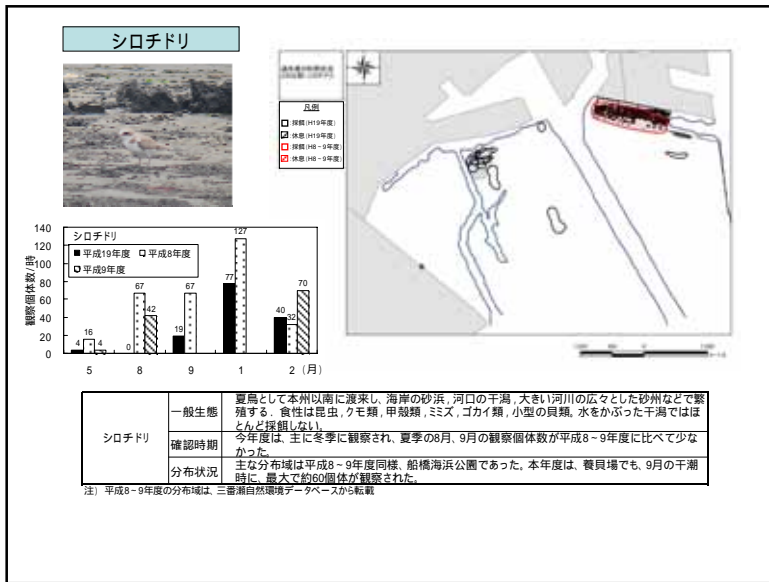
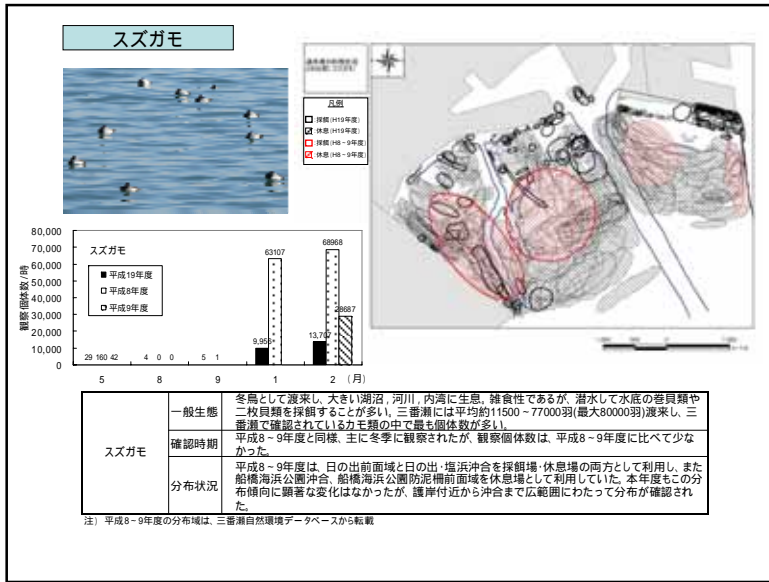
調査項目及び内容

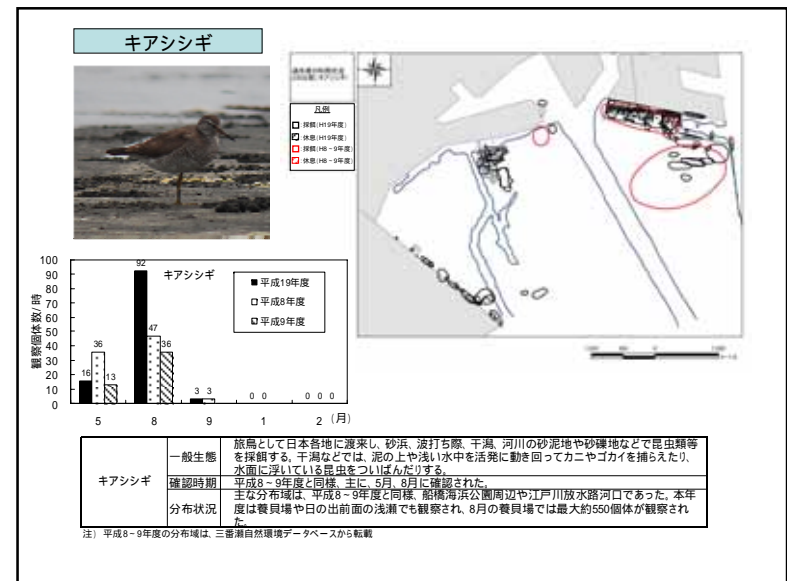
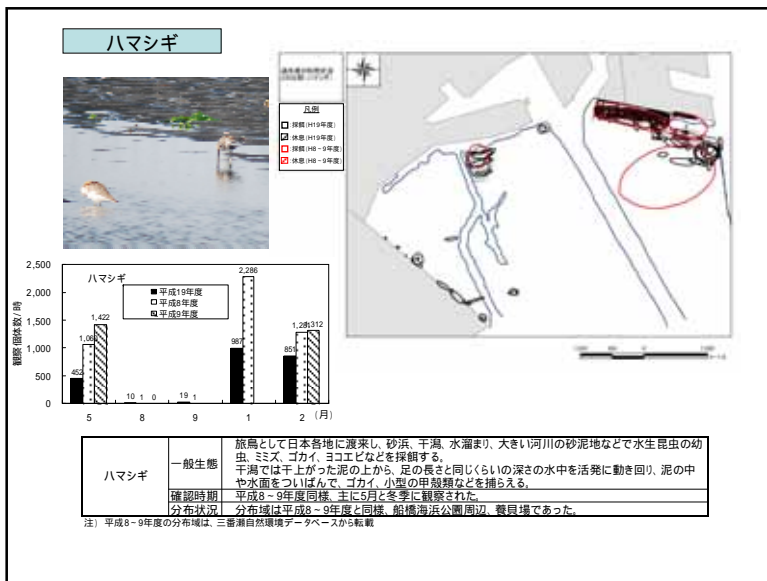
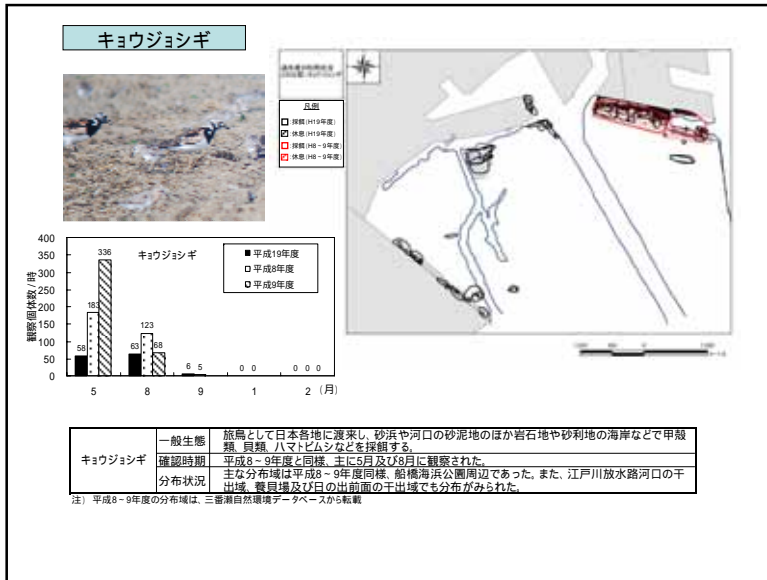
項目	内容
1. 鳥類の観察	日の出から日没まで、1時間に1回の頻度 種ごとの個体数及び分布 主たる行動(採餌、休息、飛翔)
2. 観察条件	方位 天候、気温、風向、風速、雨量等
3. 干潟面種状況記録	干出した範囲を目測で観測し、形状を記録
4. 移動方向及び周辺状況記録	調査中に鳥類が飛翔し広範囲に移動が確認された場合には、移動方向、移動先、移動の原因となった事項を記録。
5. 写真による記録	干潮時、満潮時の2回、広角レンズ(28mm相当)を用いてパノラマ的に全容を撮影した。

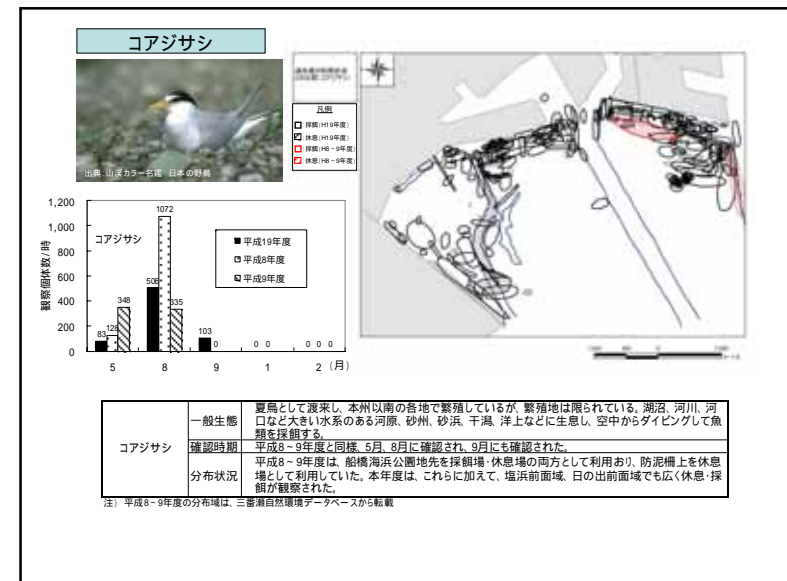
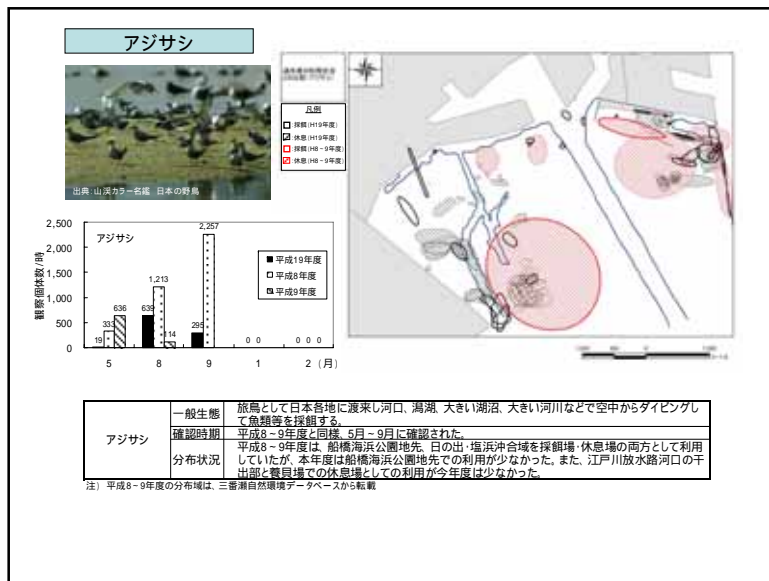
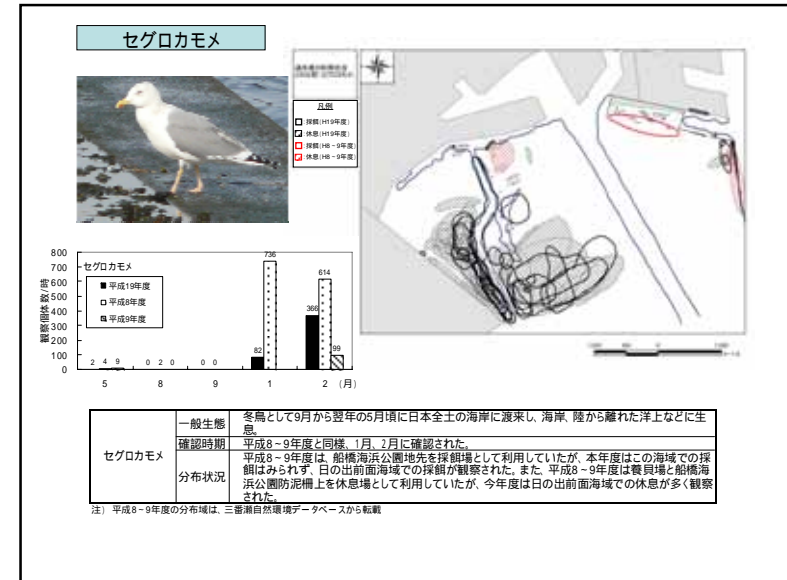
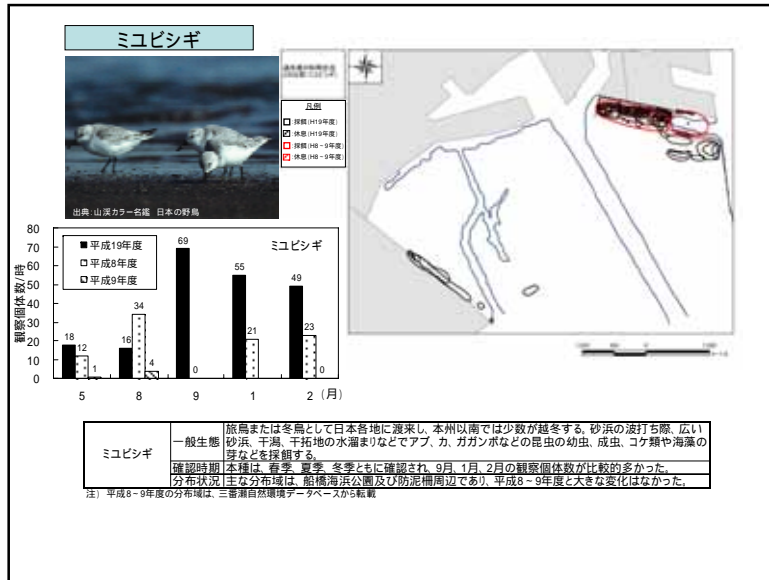


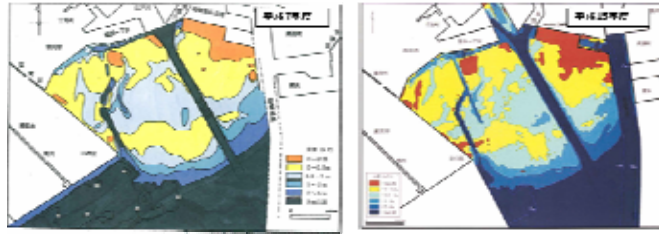
干潮時の景観記録の一例(A地点、平成19年6月1日、11時)











ま と め

三番瀬の平成7年度及び15年度の深浅測量結果を上図に示した。日の出前面域、猫突川河口、養貝場、船橋海浜公園前面域などで、AP.0m以浅の干出域が拡大する傾向がみられている。

シギ・チドリ類のうち、シロチドリ、キョウジョシギ、キアシシギ等は船橋海浜公園とその周辺の干出域に加えて、日の出前面域、養貝場での観察も多くなっており、干出域が拡大していることとの関連性が示唆された。

ヒドリガモ、オナガガモについては、塩浜前面域での分布が少なくなり、日の出前面域の観察が多かった。また、ハジロカイツブリも日の出前面での分布が少なくなり、防泥槽北側や市川航路沿いでの確認が多くなっており分布域に変化がみられた。

カワウについては、観察個体数が増加し、特に9月が多かった。台風9号の豪雨に伴い行徳可動堰が解放されゴミが漂着し、他の生息地での生息環境の変化によって、三番瀬へ飛来していた可能性が考えられた。

セグロカモメ、コアジサシについても分布域の変化がみられ、日の出前面海域や塩浜前面海域での観察が多かった。